

# 赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行／日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 一部20円

# 9 Sep 2009

Vol.832 http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



名誉総裁皇后陛下から記章を授与される齋田さん

今年日本から唯一の受賞

## フローレンス・ナイチンゲル 記章授与式

齋田トキ子さん  
に栄誉

顕著な功績を果たした看護師などに贈られる「フローレンス・ナイチンゲル記章」の授与式が8月12日、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、同名誉副総裁秋篠宮妃殿下、同常陸宮妃殿下ご臨席のもと、東京・港区の東京プリンスホテルで行われ、皇后陛下が受章者の齋田トキ子さんに記章（賞状）と記章（メダル）を授与されました。

同記章は、平時または戦時に傷病者や障がい者、紛争・災害犠牲者に対して、勇気をもって献身的な活動をした人や、公衆衛生や看護教育の分野で顕著な活動、あるいは創造的・先駆的貢献を果たした人に授与されます。

行政などを担いました。

授与式で名誉総裁皇后陛下は「齋田さんの長年にわたる看護への献身的な活動とたゆみない努力に対し、深く敬意を表し、このたびの受賞をお祝いいたします」とお言葉を述べられました。

厚生労働省の外添要一大臣、赤十字国際委員会のヤコブ・ケレンパーガー総裁（ともに代読）、社団法人日本看護協会の久常節子会長が祝辞を述べました。

齋田さんは「ナイチンゲル女史の意思を受け継ぎ、看護の質の向上、後輩育成のため、今後とも尽力していくことを誓います」とお礼の言葉を述べました。

1920年にナイチンゲル女史生誕100周年を記念して第1回記章が授与され、今回は42回目。これまでの日本の受賞者は齋田さんを含めて101人で、国別の受賞者数はポーランドと並んで世界最多です。

(2面つづく)



日赤看護学生によるキャンパスサービス。昔ナイチンゲルが夜ごころうそくを手に看護したことを回想させた



齋田トキ子さんの功績

戦時中、日本赤十字社救護班要員として中国で救護活動に従事。戦後は宮城県の石巻赤十字高等看護学院教務主任、東北公済病院看護部長、日本看護協会理事、岩手女子看護短期大学教授などを歴任。現在も教鞭をとるかたわら、東北大学大学院の研究生として新人看護師の離職防止などの研究に取り組んでいる。84歳。



大量の流木が橋の上に重なる（兵庫県）

### 台風・大雨・地震

## 相次ぐ災害に全力対応

中国・九州北部豪雨に続いて、台風第9号による大雨が兵庫県などに大きな被害をもたらした。さらに震度6弱の地震が静岡に――今年の夏は自然災害が各地で相次ぎました。日本赤十字社は全国のネットワークを生かした被災者支援を全力で展開しました。7月21日の中国・九州北部



避難所で健康状態を聞く（山口県）

豪雨の被害に対しては、山口県支部と福岡県支部が対策本部を設置。7月22日から山口市立小鯖小学校などで行った巡回健康相談では90人の被災者に対応。26日には救護班も出動し、避難所で26人の被災者を治療しました。救護物資として、毛布約6300枚、緊急セット約740個なども両県の被災者に配付しました。

8月9日に兵庫県北西部を襲った台風第9号の大雨被害では、兵庫県支部が対策本部を設置し、近隣支部の協力も得ながら救護班派遣や救護物資を配付。地域奉仕団による炊き出しなど防災ボランティアも活躍し多面的な被災者支援に取り組みました。一方、静岡で8月11日の早

5面

「人と人をつなぎ  
世界をもっと優しい社会に」

赤十字広報特使  
藤原紀香さん

介護体験 & 学生との  
トークイベント in 兵庫

赤十字広報特使の藤原紀香さんが8月22日、高齢者支援の基礎知識などを学ぶ健康生活支援講習を兵庫県支部で受講しました。車いすの介助などを体験した藤原さんは「介護される側に立って、考えることが大切なんです」と感想を述べました。

翌23日には、藤原さんの母校である神戸親和女子大で行われた学生ボランティアとのトークイベントに参加。自らの体験や日赤での活動を紹介しながら、「自分にできることを無理のない範囲で続けていくのがボランティア活動。そうやって人と人がつながれば、世界はもっと優しくなるはず」と学生たちに呼びかけました。

詳しくは次号に掲載します。

フローレンス・ナイチンゲール記章受章記念講演会

「看護は私の人生の師」

齋田トキ子さんが感謝の言葉

フローレンス・ナイチンゲール記章授与式の後、受章記念講演会が開かれ、受章者の齋田トキ子さんが「私の歩んだ看護への道程」と題して講演。赤十字国際委員会(ICCRC)のクリスティーン・ペーリ副総裁は「紛争下の人道活動」をテーマに記念講演を行いました。



受け継がれるソルフェリーノの精神

第二次大戦中、従軍看護婦として中国の戦地におもむき、戦後は看護教育や看護行政に携わってきた齋田さんは、自らの半生を振り返りながら「看護は私に人生の喜びと厳しさを与えてくれました。看護は私の人生の師でもあったのです」と述べ、「健康維持の秘訣も社会人としての生き方も看護が教えてくれました。また、看護は私に犠牲者の多くは兵士ではなく民

「日中友好にも寄与」 42企業・団体から47人が参加



救援・復興支援活動報告会

日本赤十字社海外救援金を寄せて下さった企業関係者を招き「ミャンマー・サイクロン災害、中国大地震 救援・復興支援活動報告会」が8月6日、東京・港区の日赤本社で開催され、42企業・団体の社会貢献担当者など47人が参加しました。

間人。ICCRCの活動も民間人犠牲者の救済に焦点を当てています」と指摘。「避難民の増加や気候変動、経済危機などによって、状況は悪化、複雑化していますが、私たち

が丸となって、人々の苦しみを回避したり、軽減したりすることは可能です」と力を込めました。その一方で、人道活動に携わる赤十字関係者が死傷するケースや活動への妨害が発生していることへの憂慮を表明しました。

ミャンマー・サイクロン災害、中国大地震

田さんの人道的姿勢とその精神から私たちが学べる教訓は、紛争地域だけでなく日々の生活に生かすことができま

台風9号による豪雨被害への義援金募集



8月9日に日本を襲った台風第9号は、兵庫・岡山の両県に大きな被害をもたらした。日本赤十字社兵庫支部と岡山県支部では、被災された方への支援のため、それぞれ義援金を受け付けています。

- 受付口座 郵便振替口座 00910-8-604
加入者名 日本赤十字社兵庫支部
岡山県支部での義援金受付
名称 台風9号岡山県大雨災害義援金
受付期間 平成21年9月16日(水)まで
受付口座 郵便振替口座 01290-3-8000

7月21日からの大雨災害への義援金募集の経過報告

7月21日から中国・九州北部を襲った豪雨災害に対する義援金の受け付けは終了しました。義援金額の募集状況(8月21日現在)は以下の通りです。

- 山口県7・21大雨災害 4件
ご協力ありがとうございました。

災害が起こったときに

第11回

リラクゼーションとレクリエーションでストレス緩和

災害時高齢者生活支援講習ハンドブックより

被災した高齢者にとって、人とのつながりは心の支え。話を聞いてあげることやスキンシップは、不安や恐怖、心労などのストレス緩和に役立ちます。

◆リラクゼーション

肩や背中にやさしく触れるスキンシップによるリラクゼーションです。からだに直接触れることで、手の温もりが伝わり、癒しの効果があります。

①始める前に「肩の力を抜いて下さい」と声をかけます。



②手のひら全体を使って、ゆっくり手を動かします。

③一定のリズムですすります。強すぎて不快感を与えないように気をつけます。

◆レクリエーション

その場の雰囲気や対象者に合った内容のレクリエーションを選びます。ここでは歌とじゃんけん遊びの二つを紹介します。

歌をうたいながら肩たたき

高齢者がよく知っている季節の歌などに合わせて肩たたきをします。支援者も一緒に歌いながら、肩をたたきましょう。



手と頭を使った「じゃんけん遊び」

- 遅出し、負けじゃんけん
①一人が先にグー・チョキ・パーを出します。
②それを見て、残りの人は、負けになる手を出します。
③「勝った」ら負けです。

- 一人じゃんけん
①右手と左手の一人じゃんけんです。
②右手が左手に勝つようにグー・チョキ・パーを同時に出します。できたら、次は反対です。

※レクリエーションへの参加は無理強いることなく、高齢者の意志を尊重して行いましょう。

した大塚義治副社長は救援金への感謝を述べた上で、「近年大きな自然災害の大半がアジアに集中している。この地の有力な赤十字として私たちの役割は重大」と世界での責任を日赤が果たしていく決意を表明しました。

報告会では国際部の粉川直樹参事が、両国における住宅再建などの生活支援、病院・学校の再建、保健衛生改善などの取り組みを説明しました。

2010年版 赤十字手帳
赤十字奉仕団やボランティア、日赤職員など赤十字関係者に広く活用いただいている赤十字手帳の2010年版が11月上旬に発売予定です。
赤十字手帳
◆限定2万7000冊(在庫が尽き次第、販売終了)
◆1冊300円(税込・送料別)
携帯電話で http://www.nisseki-service.com/m/
パソコンで http://www.nisseki-service.com
変更点②
月間ダイアリー
罫線型+ブロック型
変更点①
新ロゴによる赤白リバーシブルカバー
株式会社サービス 図書出版課
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 (日本赤十字社本社1階)
TEL (03) 3437-7516 FAX (03) 3459-1432



# 兵庫県北西部の大津波災害



佐用中学校救護物資搬入

## 支部、病院、ボランティアが一丸で被災者救援に取り組む

8月9日、日本に接近した台風第9号による豪雨で兵庫県北西部に位置する佐用町(佐用郡)、宍粟市や豊岡市など甚大な被害が発生しました。兵庫県支部では災害対策本部を設置し、救護班の派遣や救護物資の配付、さらには地域奉仕団による炊き出しなど被災者救援に取り組まれました。

**即座に届けた救護物資**

この豪雨による兵庫県内の死者行方不明者は22人、全半壊1105戸、床上浸水349戸、床下浸水1664戸(8月26日兵庫県発表)など深刻な被害状況となっています。兵庫県支部では、大雨洪水



近隣支部から医療支援



近隣支部から医療支援

姫路赤十字病院の救護班は10日昼前に佐用町に入り、町立久崎小学校に救護所を開設。24時間体制で被災者の苦痛を和らげ、被災者(上)と救護班(下)とが連携して被災者を支援しています。

**被災者を支えた奉仕団、防災ボランティア**

土砂やがれきが流れ込んだ被災者の家の片づけには、赤十字防災ボランティアの13人が参加。8月13日朝から被災地佐用町に入り、被災者の皆さんが1日でも早く自宅での生活が送れるよう、泥まみれや土砂清掃などを支援しました。

8月14、15日には、近隣市町の地域奉仕団の皆さんが兵庫県支部職員とともに被災地へ。保健所と小学校の2カ所を、五目御飯、豚汁、カレーライスなどの炊き出しや飲料水、お茶など延べ2000食を提供し、被災者を励ました。

# 命の防波堤 日赤の災害救護

## 120年の伝統に吹き込まれる新しい風

### より迅速により力強く 支部・病院が連携しレベルアップ中

災害時救護活動のスタートは1888年の磐梯山噴火(福島県)。死傷者5000人余りを出した大災害でした。当時はまだ、各国赤十字社は災害救護に目を向けておらず、日本赤十字社の活動は世界の先駆者。災害救護はまさに「お家芸」です。

そんな災害救護活動のレベルアップに取り組んでいます。伝統と経験にあぐらをかかない救護の最前線を取材しました。

### 医療救護

#### 課題は災害直後の超急性期医療

「おじいさんの足の傷を消毒してくれたのは日赤救護班。瀕死の娘の命を救ったのは別の災害派遣医療チーム(DMAT)」

—こんなことになれば日赤の救護活動は時代に取り残されてしまふ—

長岡赤十字病院救命救急センター長の内藤万砂文医師は、日赤の災害救護について「危機感を語ります。『従来の救護活動はどちらか重要なが、救命医療もあわせて担わなければならない』

日赤の災害救護の中心である救えなかった5000人の命

1995年の阪神・淡路大震災の際、もし適切な救命医療が行われていれば5000人の命が救えたとはいわれています。

この苦い経験を踏まえて、政府は災害時の救急治療体制の整備に乗り出します。災害派遣医療チーム(DMAT) (Disaster Medical Assistance Team)の創設です。

DMATは災害が発生すると自治体の出動要請に応じて即座に現場に到着し、超急性期といわれる発生後48時間の限定された業務に専念し、被災者の安全と健康を守ります。

しかし、「救護班の治療の対応は救護所に自力で来ることでできる比較的軽傷の方が主。災害現場での救命医療を十分に担えていなければならない」と内藤医師は指摘します。



DMAT研修会



内藤医師

### キーワードは連携



DMAT研修会

2005年に発足したDMATが初めて出動したのが新潟県中越沖地震(2007年7月)でした。近隣の都県から計44チームが出動しました。自らもDMATチームの一員として被災地に向かった内藤医師はその経験を次のように語ります。

「DMATが機能することが分かったのは結果。た。『どのDMATも救護を担いたい』の思いが強く、先陣争いがあった。DMATの支援を受け入れた被災地病院の間で、しみが生じるなど課題も明らかになった」

DMATの多くは、これまで災害救護にかかわってこなかった二般の病院の医師・看護師らで編成されています。そのため被災者、被災地の配属に欠ける部分があったという指摘です。DMATが出動する災害時には、現地にDMAT現地本部が設置されます。日赤のDMATもこの現地本部の下で活動し、日赤の隊員が他の医療機関のDMAT隊員と協働することも想定されています。

「われわれ日赤は多くの救護経験を積んでいる。この経験を日赤以外のDMATにも伝え、生かしてもらって連携が取れる、全体のレベルアップが図れるのではないかと内藤医師は展望を語ります。」

### 目指せ！レベルアップ

「瓦礫の下からの救助と同時」に救命措置を施すことで、阪神・淡路大震災の時は救えなかった命が救えるように医療のレベルが上がった。これを身につけるには、専門的な救命医療のトレーニングが必要だと内藤医師は語ります。

DMATは現在、全国で約600チーム、3400人の隊員がいます。日赤内にも77(09年3月現在)チームが登録されています。それぞれ国の定めた研修を受講し、試験に合格した精鋭です。

8月5日から7日、日赤看護大学武蔵野キャンパスで開かれた「日赤DMAT研修会」。

救護・福祉部の木村尚文部長はこう訴えました。「超急性期の災害発生直後の医療活動への備えは十分とはいえない。救命医療を含め、救護活動全体のレベルアップを図らなければならない」

### こころのケア 見えない傷を癒せ

「災害時は、誰もがストレスを受けています。そんな被災者に、寄り添った話を聞くことが『こころのケア』。これにより、被災者の心に癒やしを届けてあげることができるといいます」

このころのケアに詳しい日赤医療センターの丸山嘉一医師は、その必要性をこう語ります。

被災者の心の問題がクローズアップされたのは阪神・淡路大震災。ストレス反応が1カ月以上続くPTSD(心的外傷後ストレス障害)が有名になりました。しかし、そこには至らない被災者のほかに、何らかのストレスに苦しんでいます。

神戸赤十字病院心療内科部長の村上典子医師は、「災害発生直後には、誰もが茫然自失に陥り、集中力を失ったり不眠状態に陥ったりします。でも、このころのケアに詳しい日赤医療センターの丸山嘉一医師は、その必要性をこう語ります。

被災者の心の問題がクローズアップされたのは阪神・淡路大震災。ストレス反応が1カ月以上続くPTSD(心的外傷後ストレス障害)が有名になりました。しかし、そこには至らない被災者のほかに、何らかのストレスに苦しんでいます。



丸山医師



災害現場でこころのケアに取り組む救護員

### 救護装備

#### すすむ充実・強化



dERUの展開訓練(千葉県)

大規模地震災害などが発生した場合、被災地に仮設診療所を設置するために開発されたのがdERU(Disaster Emergency Response Unit)です。

…国内型緊急対応ユニットです。昨年度末までに全国15カ所の本社・支部に配備されています。今年度から年度末それぞれ2支部ずつ整備を進めます。

大規模地震災害などが発生した場合、被災地に仮設診療所を設置するために開発されたのがdERU(Disaster Emergency Response Unit)です。

…国内型緊急対応ユニットです。昨年度末までに全国15カ所の本社・支部に配備されています。今年度から年度末それぞれ2支部ずつ整備を進めます。

### 動く診療所 dERU

大型トラックに積まれたコンテナは、1日150人の患者を3日間診られる医薬品と大型レントゲン、外科用具など医療器材、診療台、簡易ベッド、担架などを搭載。現場では30分〜1時間程度で立ち上げ可能な設計になっている。

コンテナを運ぶトラックには浄水器と給水タンクが搭載され、給水車として活用できるのも特徴です。

チームは医師、看護師、助産師、薬剤師、主事などで編成する14人。支援要請とともに現地へ駆けつけ、災害発生初期の診療にあたります。

dERUが最初に出動した2004年の新潟県中越沖地震の際には、約3週間にわたり活動しました。

「こころのケア要員拡大を」

丸山医師は、被災者の心のケアは、①そばに寄り添う、②親身に話を聞く、③悲しみや怒りなどの感情を受け止める—などによって進められますが、被災者へのアプローチは、怪我の治療のそれとは異なるといいます。

丸山医師は、被災者との関係づくりが大切になり、話ができるきっかけをつくらせてあげることが大切と強調します。

日赤では、こころのケア指導員養成を2003年からスタート。これまでに280人が講習を終えています。これらの指導員が各支部の救護員にこころのケアを普及拡大。昨年度からは防災ボランティアを対象にした研修も始まりました。

村上医師は、「日赤の救護班が撤退した後も、こころのケアは求められる。地域の赤十字奉仕団など防災ボランティアの方に、こころのケアを広げていくことが求められている」と述べています。



水代わりのお茶やコーヒーで炊飯に挑戦

「パンストや新聞紙で応急手当ができる」とは知らなかった。「もしもの時に役立つようにしたい」などの感想が出されました。

島県立富岡西高等学校で開催されました。同校1年生の全生徒約240人が対象で、徳島県支部から防災ボランティア、救急法指導員など6人が講師として参加しました。炊き出しやロープワーク、応急手当などの実技のほか、国土交通省職員の指導による土のう積みも体験しました。

頼りにしてるぞ 高校生の若い力 徳島

# 親子で体験 学んだ命の大切さ



10回目となったジュニアライフセービング教室。レスキューボードを体験

千葉県支部は7月26日、千葉市美浜区いなげの浜で赤十字ジュニア・ライフセービング教室を開催。18人の親子が

ペットボトルも使える！ 楽しく学んだ人命救助

参加し、ペットボトルを使った救助法や心肺蘇生法などを

千葉

学びました。

教室は、赤十字安全水泳奉仕団、青年赤十字奉仕団との共催。家族で水の事故防止の知識と技術を習得してもらうことを目的に毎年開催しています。



成分献血後の黄色い血小板製剤を見学

赤くない血液にビックリ！ 献血教室で新発見

宮崎

宮崎県赤十字血液センターは8月7日、小学生とその保護者を対象に「夏休み親子献血教室」を開催しました。命の尊

さを学んでもらおうと、平成6年から開催しているもので、今年は48組106人の親子が参加しました。

## 忘れたところに 災害に備えよう やってくる



毛布を使って搬送体験

ネクタイ、雑誌も応急手当に活躍！ 大阪

大阪府支部は8月1、2日の2日間、大阪赤十字会館で「夏休み 親子の防災セミナー」を開催しました。

実践的訓練で 災害時救助の レベルアップを 兵庫

兵庫支部は7月5日、赤十字防災ボランティア実践研修会を開催しました。特別赤十字奉仕団員、赤十字防災ボランティアの41人が参加しました。

兵庫支部では、赤十字防災ボランティアのリーダーとサプリーダーが中心となり研修内容を検討し、この様な研修を年2回実施。より実践的な研修となるよう努めています。



三角巾での手当

京都サンガFC 応援キャンペーン サポーター19500人の前で 赤十字をPR 京都



赤十字事業啓発イベントで 抽選をする地区職員

は、区政施行130周年を記念して7月26日、西京極陸上競技場でJリーグ京都サンガ応援キャンペーンを実施。赤十字事業啓発コーナーを出展しました。

応援キャンペーンには、奉

仕団など関係者約200人が駆けつけ、赤十字啓発コーナー前でサイン入りユニフォームやサッカーボール、タオル、携帯ストラップなどの抽選会を行いました。

京都サンガFCの主要選手のサイン入りサッカーボールを抽選で当たった小学生は「この日の思い出が一生の宝物になります」と興奮して話していました。

イーハトーブ に新学生奉仕 団誕生 岩手

イーハトーブ学生赤十字奉仕団(45人)と岩手大学学生赤十字奉仕団(6人)の合同結団式が7月18日、岩手県赤十字会館で開催され、両団から15人が参加しました。



これからの活動に意欲を燃やす学生の皆さん

岩手県支部の圃田事務局長は活動を通じて交流を深め、様々なことを学んでいたとあいさつ。菅原里佳岩手大学奉仕団委員長は「団員を増やし、ボランティア活動の活性化につなげたい」、菅原美保イーハトーブ奉仕団

委員長は「献血推進活動などを通じ、成長する団体を目指す」と、それぞれ結団宣言を行いました。

目光で 臨時救護活動 栃木

栃木支部は7月31日と8月1日の2日間、日光市で行われた男体山登拝祭で臨時救護活動を行いました。

男体山7合目の救護所

64年目を迎えた原爆殉職職員慰霊式 広島

広島赤十字・原爆病院は「原爆の日」の8月6日、原爆殉職職員慰霊式を行いました。職員や一般の人など多くの方々が参列し、志半ばで命を落とした赤十字職員のめい福を祈りました。

慰霊式では土肥博雄院長が原爆投下後、わずかに残った病院建物で行われた懸命な治療活動の様子などを紹介。参列者は午前8時15分の鐘とともに1分間の黙とう。犠牲者に哀悼の意をさげました。



黙とうを捧げる参列者

間の登山が可能。しかし、夜間ということだけがする登山者も多く、支部では県内の各赤十字病院をはじめ、自衛隊や警察とも連携した救護活動にあたっていきます。救護所は登山口のある社務所と4合目、7合目、頂上に設置。今年は1500人と登山者が多く、例年を超える50人の救護を行いました。



アートディレクター・グラフィックデザイナー 水谷 孝次さん (MERRY PROJECT 主宰)

「ケニアに子どもたちの笑顔が写っています。名づけて「MERRY PROJECT」。MERRY (メリー) とは、「楽しいこと、幸せなこと、夢」のこと。1999年にスタートし、25カ国、3万人以上の笑顔を集めました。

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

世界中の子どもたちの笑顔写真で撮り続けています。名づけて「MERRY PROJECT」。MERRY (メリー) とは、「楽しいこと、幸せなこと、夢」のこと。1999年にスタートし、25カ国、3万人以上の笑顔を集めました。

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

「父は戦争で片方の耳を失う大けがを負いました。聴力が落ちた父の耳の代わりを私がしていました。周囲の人々から奇異な目で見られるのが嫌でした。笑顔に向けて欲しかった」

# 日赤後援で グランドファーザーズ・レター展

## スマトラ地震被災地の子どもたちへ絵手紙の贈り物



心を込めて絵手紙を描く来場者(愛知)

20世紀はじめに元英国軍人ヘンリー・ソーンヒル卿が4人の孫にあてた1200通の絵手紙。このコレクションの一部を展覧した「グランドファーザーズ・レター展」が7月中旬から8月末まで東京と愛知で開催されました。

「親族にあてた世界最多の書簡」といわれ、それをまとめた絵本が英国王室の愛蔵書になるなど高い評価を受けています。展覧会は、日英文化交流促進などを目的に実行委員会が主催したもので、日本赤十字社が後援しました。

会場となった高浜市やきもの里から美術館と代官山ビルサイドテラスには、スマトラ島沖地震・津波災害(平成16年12月)の被災地の子どもたちへ絵手紙を描く赤十字コーナーを設置。開催期間が夏休みということもあり、多くの子どもたちが会場を訪れ、遠い被災地に想いを届ける熱心に絵手紙を描く様子が見られました。

この絵手紙は、青少年赤十字のネットワークにより現地の子どもたちに届けられます。

付が寄せられました。同社の齋藤亮三社長は「祖父母も赤十字へご協力させていただいた。三代にわたりが協力でき光栄」と語っています。お父様の齋藤利一さんは平成15年全国赤十字大会

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

# 笑顔で世界を幸せに

自分の求めていたものに気づきました。子どもの笑顔は世界中どこでも素敵ですが、苦しい環境に置かれていた子どもたちの一瞬の笑顔がとりわけ輝いて見えます。日本赤十字社と協働(コラボ)する接点はここから生れました。

北京オリンピックに合わせて、六本木ヒルズにも展示しました。募金箱に集まったお金は日赤に寄付されました。

中国四川省で起きた大地震、スマトラ島沖地震・津波。復興活動を懸命に続ける日赤チームがいるところの子どもたちの笑顔の写真を撮りに出かけ、その写真を今年8月には横浜開港博で、日赤の活動写真とともに展示しました。

「日赤の支援活動をもっと多くの人たちに見てもらうために、これからもコラボできると思います。」

今年6月、中国四川省で日赤が再建を支援している小学校を訪れ、子ども達の笑顔を描影する水谷氏

今年6月、中国四川省で日赤が再建を支援している小学校を訪れ、子ども達の笑顔を描影する水谷氏

# Voice & 懸賞クイズ

懐かしい献血車——石井健章さん(堺市) 献血歴30年。当時の献血は街頭の献血車でした。献血ルームが整備されたのに献血する方が減少したのは残念。町の中に献血車が止まっていると目立つので献血のきっかけになると思っています。

初めて読みました——甲方康之さん(大垣市) 赤十字新聞を読むのは初めてです。中一の息子と一緒に読みましたが、赤十字の仕事に興味を持つのもいいなあと思っています。

未来は明るい——松坂克子さん(北九州市) 紙面に子ども達の活動が多

未来は明るい——松坂克子さん(北九州市) 紙面に子ども達の活動が多

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

「HOPへ」と高校JRC部が募金を寄付 千葉県立安房高等学校のJRC部は6月26、27日に開か

## 今月号のプレゼント



「日赤2色ボールペン」3名様に

8月号の懸賞クイズ 答え① シンクロ 答え② 菜種 当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

## 9月号懸賞クイズ

問題① 日本赤十字社が災害時救護活動をスタートしたのは何年から? 答え □□□□年(アラビア数字4文字) 問題② 顕著な功績を果たした看護師に贈られる賞は? 答え フローレンス・□□□□□□□□(カタカナ7文字) ヒントは「赤十字新聞9月号」の記事の中です。

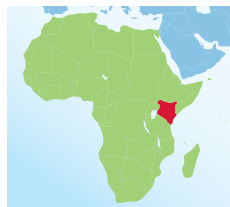
問題① 日本赤十字社が災害時救護活動をスタートしたのは何年から? 答え □□□□年(アラビア数字4文字) 問題② 顕著な功績を果たした看護師に贈られる賞は? 答え フローレンス・□□□□□□□□(カタカナ7文字) ヒントは「赤十字新聞9月号」の記事の中です。

インタビュー INTERVIEW

ケニア駐在員 五十嵐真希さん

モノを与える援助から 人を育てる援助へ

IHOR (Integrated Health Outreach Project) の挑戦



日本赤十字社がケニア赤十字社と取り組む「IHOP = ケニアの子どもたちを救う地域保健強化事業」。現地駐在員の五十嵐真希さんがこのほど一時帰国しました。活動開始からまる1年。事業の成果とこれからの展望について話を聞きました。



「ダンソイエ」。五十嵐さんが現地の人から付けてもらった名前です。「現地のボラナ語で、美しく、とてもいい人という意味です(笑い)」と五十嵐さん。事業地を訪問する際には、小屋のような場所で寝泊まりし、食事は現地のもを食べます。「地元の人が食べているものを出された時に、食べられないって言ったらそれ一発でアウト。現地に溶け込み、仲間として信頼を得るにはこれがすごく大切なんですよ」

問題解決は自分たちで

アフリカ各国には過去にも様々な支援が行われてきました。ところが保健衛生や水、食料事情はなかなか満足できるレベルに改善されません。

その背景について五十嵐さんは「地元の文化や習慣を理解せず、先進国流を押しつける援助方法にも問題があった」と指摘します。「現地の主体性を大切にしないから援助は根付かず、モノを与えるだけの支援は、人々の自立心も損ないました」

これに対してIHOPは、現地の問題を彼ら自身で解決することを目標にした事業。赤十字ボランティアと地域保健員の87人はすべて、IHOP事業地のガルバチュウラ県内にある17の村々から選ばれました。彼らは水と衛生に関するトレーニング、救急法、医療保健教育などを受けています。



蚊帳への防虫剤の再塗布作業を行う赤いシャツを着たボランティア

「モノは壊れたら終わりですが、人を育てることで、健康や衛生の考え方は確実に地域に根付いていきます」と五十嵐さん。「だから、私はケニア赤十字社のスタッフにあまり指示はしないようにしています。問題解決を一緒に考えるプロジェクトチ

ームの一員でありたいと思っています」事業開始から1年。以前は長老の意見しか聞けなかった村人たちが、若いボランティアの話にも耳を傾けるようになりました。今年6月に3つの村でコレラが発生した際には、赤十字ボランティアが各家庭を回り、正しい対処法を指導。感染の拡大をくい止める成果を上げるまでになりました。

感じるアフリカの力

事業地のガルバチュウラは砂漠と石山の荒涼とした風景が広がっています。「住民のほとんどは遊牧民。彼らの一番の財産は牛やヤギ、ロバ、ラクダなどの家畜です。人間よりも家畜が大切。だから水を飲むときも家畜からです」と五十嵐さんは彼らの生活を語ります。最近の気候変動の影響はこの貧しい地域にも容赦ありません。ケニアの雨期は年2回ですが、昨年10~12月の雨期は雨量が少なく首

ボランティア集会場「ポスコ」建設中

インドネシア赤十字社が

保健衛生普及事業 日赤も支援



赤十字ボランティアの育成を通じて、地域に根ざした衛生教育や救急法を普及するCBFA事業 (Community Based First Aid) にインドネシア赤十字社が取り組んでいます。日本赤十字社はこの事業を4年間にわたって支援。現在、地域でのボランティア活動拠点となる集会場「ポスコ」(インドネシア語で『集会所』の意味)の建設を進めています。

CBFA事業が取り組まれているのは、2004年のスマトラ島沖地震・津波災害で大きな被害を受けたインドネシア・アチェ州ナガンラヤ県。スマトラ島北西部海岸に面する同県には約12万人が暮らしています。

インドネシア赤十字社のナガンラヤ県支部では、2007年から今年3月までに130人のボラ



建設地の提供や、建設作業員の選出、材料の調達や価格交渉など、村人が中心となって、ポスコは建てられる

ンティアを育成しました。看護師や助産師だけでなく、教師や農民、主婦などさまざまな職業の村民が参加しているのが特徴です。今年3月のトレーニングに参加したルスミさん(30代女性)は「村の生活に必要な基礎保健の知識を得ることができた」と喜んでいました。

過去3年間の事業ではボランティア育成が主でしたが、事業最終年の今年にはボランティアによる村での活動が重点。ボランティアが立案し、実施した保健普及や救急法などの活動は、今年の半年だけで385回に達しました。

建設中のボランティア集会場ポスコは、CBFAを村に根づかせ、ボランティアの活動拠点や情報発信源となることを目指したものです。インドネシア赤十字社ナガンラヤ県支部の理事ザプリルさんは「ポスコはCBFAの持続・発展のために大事な礎。他の支部にも広がっていきたい」と語っています。



「救急法コンペ」で優秀な実技を披露し、長谷川文駐在員(日赤医療センター)からトロフィーを受け取るボランティアの方々



過酷な環境の下でも明るい子どもたち

都ナイロビでも水不足に。今年3~5月の雨期にガルバチュウラには一滴の雨も降りませんでした。干ばつの影響で作物が育たず、食料不足も深刻です。

五十嵐さんは、そんな過酷な環境に暮らす彼らの中に、ケニアの人々のタフさや底力を感じると言います。「いつも明るいし、朗らか。ボランティアのスタッフは手足がゴボウのように細いのにすごく頑張っている。みんなを見ているとアフリカの大地の力とでもいうのか、彼ら自身で問題を解決する力があるはずだって確信できるんです」

ヨーロッパ各国の植民地になる以前、アフリカの人々は、彼ら自身で立派に自立していました。「IHOPは、そんな彼らの力を信頼した事業です。彼らの声を聞き、彼らの生活にあった方法で、地域保健を強化して一人でも多くの子どもの命を救い、彼らの自立を目指していきたい」と五十嵐さんは事業のこれからを展望しています。

マングローブをありがとう!

東京ドーム2100個分を植林

ベトナム赤十字社トラン社長が来日

日本赤十字社の支援でベトナム赤十字社が取り組むマングローブ(海岸湿地帯の植物)植林事業。このほどベトナム赤十字社のトラン・ゴクタン



植林されたマングローブの保護活動を行う地域住民・赤十字ボランティア

社長らが日赤本社に来社し、支援に対する深い感謝の意を表明しました。

長い海岸線を持つベトナムでは、毎年10前後の台風が上陸。多数の死傷者や家屋の倒壊、農業生産の損失など深刻な被害を受けています。高い防波効果を持つマングローブの植林事業は、こうした被害の防止が目的。1997年から始まった日赤の支援では、延べ9860ヘクタール(東京ドーム約2100個分)の湿地に植林されました。

8月4日に行われた報告会には、同事業を支援している日赤の12府県支部からも聴講者として参加。ベトナム赤十字社社会福祉部のトゥアン係長が、住民参加で行われている植林の様子、マングローブに集まる魚介類の採取やマングローブを見学に来る観光客による経済効果などを説明。一方、課題としてトゥアン係長は、「海産物を採取する際にマングローブが傷つけられてしまうなど、マングローブ保護に関する一部住民の意識にも問題がある」と指摘し、住民教育や啓発活動の重要性を訴えました。



トラン社長による謝意

日赤の第3次5カ年計画(2006~2010年)では、マングローブが果たす防災の役割を住民に理解してもらうための研修も実施しています。